

西陵中・幌別西小 小中連携だより

発行：西陵中学校・幌別西小学校 小中一貫教育推進協議会 平成31年2月21日【第4号】

保護者アンケート・小中共通項目に関する結果のお知らせ

12月に実施した学校評価アンケートから、小中共通項目の結果をまとめましたので、ここに報告いたします。 数字(%)は「あてはまる」「だいたいあてはまる」を合計したものです。

- | |
|---|
| 1 学校は、学校だより、ホームページ、学級通信等を通して、教育方針や教育活動をわかりやすく説明している。 H29【小：95% 中：94%】→ H30【小：94% 中：94%】 |
| 2 学校は、子どもの相談や連絡、保護者の願いや要望に対して、誠意をもって対応している。 H29【小：92% 中：85%】→ H30【小：89% 中：87%】 |

昨年度に引き続き、情報発信と誠意ある対応に関して、小中ともに高い評価をいただきました。小学校では数年前から導入していた緊急メール配信サービスを今年度からは中学校でも始めています。1月末現在、小学校では93.4%、中学校では88.1%のご家庭が配信サービスに登録済みです。暴風雨(雪)による臨時休校やインフルエンザによる学級・学年閉鎖の連絡等を速やかに行うため、今後ご協力をお願いいたします。

なお、現在6年生で4月から西陵中学校に入学するお子さんのご家庭は、入学後に中学校でメールの登録をしていただく必要があります。詳しくは入学後にお知らせいたします。

- | |
|---|
| 3 学校は、(習熟度別学習や複数教員の指導など)子どもたちが「わかった」「できた」「使えた」と実感できる授業をしている。 H29【小：81% 中：76%】→ H30【小：89% 中：75%】 |
|---|

私たちは、きめの細かい学習指導を目指し、小学校では、特に算数科において3年生以上の習熟度別少数指導や複数教員による学習指導を行い、子どもの着実な学習内容の習得に努めています。中学校では、不定期ではありますが1学年と3学年の数学科において複数教員による授業を実施しています。

小学校が2020年度から、中学校が2021年度から全面实施となる新しい学習指導要領は、将来につながるような「生きる力」

を育むために、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視して授業を改善していくこと、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、資質・能力をバランスよく育むこと等、子どもの学びを進化させていくものです。

毎年11月に実施している「ふれあいデー(地域参観日)」や学校運営協議会で授業を参観された方々から、「最近の授業は昔ながらの講義型の授業でなく、グループで話し合いをしたり、発表しあったりする授業が多く、子どもの目がいきいきとしているね」というお話をよく聞きます。私たちの最終目標は、義務教育9年間で学んだことを実生活に生かし、自分の能力を発揮して、人生や社会をよりよくしていこうという力を身に付けさせることです。そのような目標を小中の教員が共有しながら、日々の授業改善に取り組んでいきます。



4年算数・習熟度別授業

- | |
|--|
| 4 学校は、家庭と共に、子どもが毎日家庭で学習する習慣づくりに取り組んでいる。 H29【小：89% 中：83%】→ H30【小：91% 中：87%】 |
|--|

小学校も中学校も、わずかではありますが数値の伸びを記録しました。小学校では、中学校と時期をあわせて家庭学習強調週間を設定することで、通常だと55.3%の学年×10分の家庭学習の取組(12月児童アンケートによる)が、強調週間中は72.6%(11月の家庭学習提出率)と一斉の成果を出しています。他にも、

家庭学習ノート展やノート提出皆勤児童への賞状などで子どものやる気の喚起に努めています。

中学校では、担任が家庭学習の提出を呼びかけ、週末に発行する学級通信に1週間の提出状況を紹介しています。また、学習専門委員会の取組として、全校生徒の家庭学習提出状況を生徒玄関ホールに掲示する家庭学習強化週間の設定など、生徒の主体的、意欲的な取組となる工夫をしています。この家庭学習強化週間は、「中学校に通う兄や姉が勉強しているから、私も勉強する」という意識が高まってほしいという願いから、昨年度から中学校の定期テスト前、小学校と同時期に実施しています。

5 学校は、よりよい人間関係づくりや規則を守る態度など、子どもの社会性を育てている。 H29【小：86% 中：78%】→ H30【小：85% 中：85%】
--

6 学校は、いじめに関する情報を提示し、「いじめは絶対に許されない」という意識を子どもたちに育てている。 H29【小：81% 中：76%】→ H30【小：77% 中：80%】
--

小学校では、いじめの問題に対して「しない・させない・許さない」を指導の原則とし、日常的な子どもの観察を大切にしながらいじめ調査を踏まえた教育相談を継続するとともに、児童会の挨拶運動や全校でいじめ標語の募集に取り組むなど、子どもが主体となった活動も進めています。

中学校では、昨年度の学校経営方針である「安心」「信頼」のある学校づくりに、今年度は「けじめ」をプラスしてスタートしました。西陵中生徒のよさは、明るく元気で素直なところ。このよさを生かした活発な生徒会活動は西陵中の大きな特徴であり、素晴らしい取組がたくさんあります。「自分たちの生活を自分たちでよくしよう」という自治的活動は、仲間とのよりよい人間関係なしには築きあげられません。この生徒会活動をはじめとして、生徒が活動するあらゆる場面において、TOPOに応じた「けじめ」や「切り替え」の気持ちを培うことで、より一層、生徒の成長を育てていきます。



西陵中・いじめを考える集会

7 私（我が家）は、子どもたちに挨拶や返事、言葉遣い（小：靴をそろえる）などが身につくように指導している。 H29【小：91% 中：85%】→ H30【小：93% 中：88%】

8 子どもは、元気に挨拶できる。 H29【小：83% 中：78%】→ H30【小：84% 中：79%】
--

小学校・中学校ともに数値が微増しました。今年度は、年度始めに全家庭に配布しました「子どもたちに習慣化させたい10項目」の中から月に一つずつを取り上げ、両校同時に1ヶ月間徹底して指導にあたってきました。8月の「自分からあいさつしよう」に始まり、2月の「家で読書しよう」まで、学校だより等でご家庭にお知らせしてきましたが、今後は声掛けや呼び掛けだけに終わらず、実際に目標を達成させるための具体的な取組方法を考えていく必要があります。

挨拶に関しては、「こちらから挨拶すれば返してくれるが、自分から挨拶できない子が多い」という声が、地域の方や学校運営協議会の委員さんから出ていました。小学校においてもこの点を気にかけてか、教職員の自己評価が低下しています。学校を卒業し、一人前の社会人となるために必要な「挨拶・返事・言葉遣い」。今後も5年後、10年後の成長した姿を思い浮かべながら、指導していきます。

9 子どもは、学校生活を楽しみにしている。 H29【小：93% 中：81%】→ H30【小：91% 中：75%】

平成30年度、幌別西小学校は子どもの笑顔を創り出す学校、西陵中学校は「けじめ」「安心」「信頼」のある学校を目指して教育活動を行ってきました。学校へ行けば自分の役割がある、活躍の場がある、どこかに居場所がある。自己有用感や安心感があれば、学校に足を運びたくなります。今後も、学校生活が楽しみという生徒がますます増えるよう、小中が連携して、より良い学校づくりを目指していきます。